

坂東札所を巡り 文化遺産を学ぶ

埼玉県内4寺・鎌倉2寺

東松山市 きらめき市民大学

第15期 国際・文化学部 課題研究B班



B班メンバー紹介 (◎：リーダー ○：サブリーダー)

加美	鈴木	◎江守	内田	石崎	○柴田	木村	佐々木	安藤
町子	勇	利夫	六平	健	博	幸子	洋子	高一

目次

- I. はじめに
- II. 観音信仰について
- III. 坂東三十三観音霊場（札所）の歴史と構成
 - 1、 歴史
 - 2、 構成
- IV. 巡礼の装束とお参りの作法について
- V. 鎌倉二寺と埼玉四寺の紹介
 - 1、 一番札所 大蔵山 杉本寺（鎌倉）
 - 2、 四番札所 海光山 長谷寺（鎌倉）
 - 3、 九番札所 都幾山 慈光寺（埼玉）
 - 4、 十番札所 巖殿山 正法寺（埼玉）
 - 5、 十一番札所 岩殿山 安楽寺（埼玉）
 - 6、 十二番札所 華林山 慈恩寺（埼玉）
- VI. 文化遺産の継承と発展について
- VII. まとめ



I. はじめに

私達の住む東松山市近隣は、埼玉県ほぼ中央に位置し、古代、中世、近世を通しての貴重な文化遺産が数多く残されており、その中には豊かな自然や歴史から地域に育った信仰の足跡も残されています。

鎌倉幕府の成立をきっかけに始まったと言われている坂東札所三十三ヶ寺の観音巡礼の歴史的な背景、各寺に伝わる貴重な文化遺産等に身近に触れ親しみたい思いで、課題研究のテーマとして選定しました。其々の観音霊場が1,300有余年の間、文化遺産や歴史と習俗を守り、継承されてこられた住職さん達を訪ね、寺に伝わる縁起や苦労話を直接伺うことにしました。救いを求める人々の悩みや、年齢、性別、境遇などに応じて33種類の姿に変身し、災難を取り除いてくれる観音様の紹介もしたいと思います。又、昔の巡礼道や名所・旧跡を歩きながら出会う人々、草花、樹木、生きもの達の自然や季節の彩りに触れたり、地域の美味しい食事も楽しみにしています。観音霊場巡りは、歩く信仰、旅する宗教とも言われていますが、単に家内安全・苦しい時の神頼みの寺社詣りだけでなく、高齢化社会の一員としての自身を見つめ直す良い機会にしたいと思っています。

巡礼先の先達よりの話では、現在は巡礼の大ブームとありますが、私達は厳しい修行をしようとは思いませんが、往時の弘法大師の道に触れ歩きながら、静かな山中のお寺に入り、観音様と真摯に向き合い、まさに【同行10人】のメンバーでテーマの完成と報告を行います。



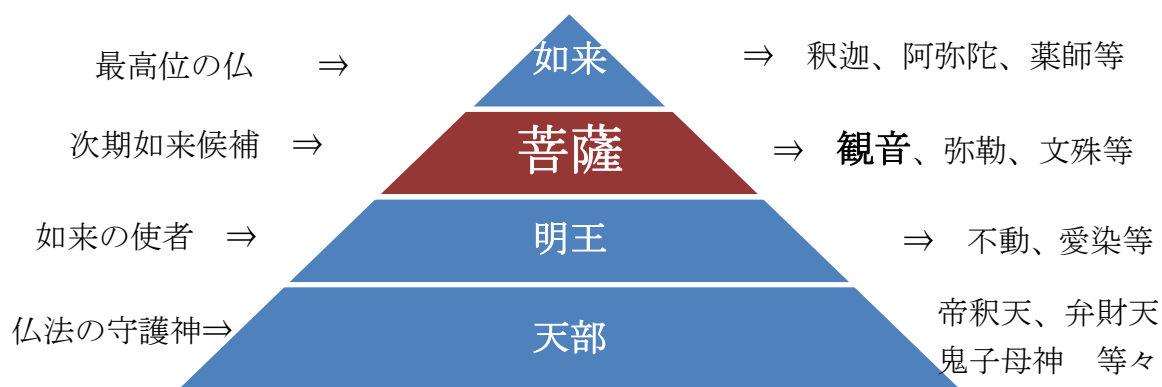
慈光寺住職の法話

II. 観音信仰について

1、観音様とはこんな仏です。

インドの神様を起源とする観音様は、観世音菩薩の略称であり、弥勒、文殊、地蔵等とともに菩薩の仲間である。阿弥陀如来は、死後の来世における安寧をかなえてくれ、これに対して観世音菩薩は現世の救いを求める人々のすべての声を聞いて、災難を取り除いてくれるありがたい性格を持っている。観音経によれば人々を救済する為に 33 種類の姿に変身し、無限の慈悲であらゆる願を叶えてくれるとされている。仏教では 33 は無限の数を意味し、このことから、三十三カ所の観音霊場に定められたとされている。

2、仏と神の階層



3、観音霊場の観世音菩薩

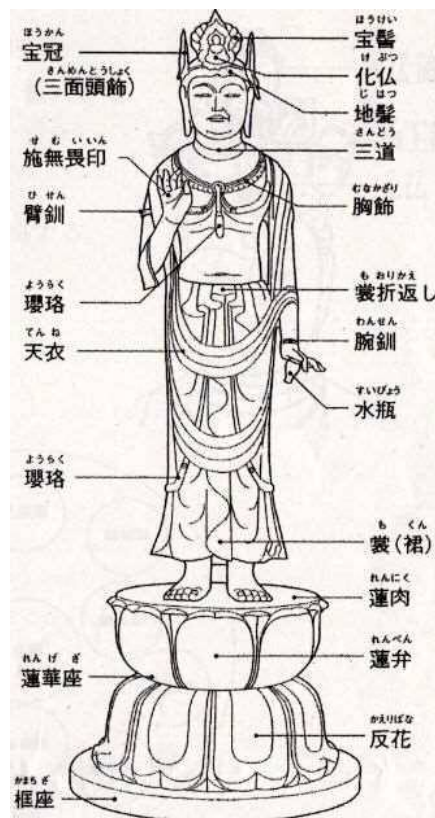
観音霊場の観音様は、ほとんどが次の7つが本尊として祀られている。さらに、6道に迷う衆生を救う役割も持っている。

ア、聖（しょう）観音

多くの観音菩薩の基本的な姿をしていて、33化身の頂点に位置する。頭に宝冠を頂いた化仏（如来が衆生を救うために姿を変えて現れた）がある。地獄道[罪を償わせる為の世界]に迷う衆生を救う。

イ、十一面観音

↓ 頭部に十一の顔を持ち、あらゆる方向を見て人々を救う。正面の3面が慈悲の表情の菩薩面、左3面が悪人を戒める憤怒面、右3面が仏敵に対し怒り、頑張っている人を励ます表情をし、頭頂の仏面、後頭部に大笑面を



頂戴している。修羅道は苦しみや怒りが絶えない世界での悟りに導く。

ウ、千手観音（千手千眼観音ともいう）

千の眼で人々の苦しみを隈なく見て、千の手で救済する。胸の前で合掌する2本の手を除いた40本の手が仏教でいう「天界から地獄までの25の世界」が有るとのことで、40本の手×25界=1,000手となるとのことです。



餓鬼道は「餓えと渇きに悩まされる世界」よりの救済をする。

エ、馬頭観音



↓ 恐ろしい憤怒相をした馬頭を載せており、怒りにより、煩惱や病を断ち切り、諸悪を降伏させ、天変地異を防ぐ本尊である。また畜生道ではあらゆる畜生類を救う観音と言われている。昔は馬が重要な輸送手段であり、旅の安全を守る仏としての信仰も集めていた。

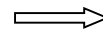
オ、如意輪観音 如意宝珠と輪宝を

持ち右足を立膝にし、右手を頬にあて、人々の願いを叶える。意のままに無数の珍宝を出す力が有ることから、富貴、福德、知能、安産長寿等にご利益がある。天道の世界（この世界は苦しみもほとんどなく寿命も非常に長い」の御利がある。



カ、准胝観音

人々を救済する為に多くの仏を生み出した（仏母）。六観音のなかでは唯一の女尊であり、安産、子授けの御利益などもあるとされる。人間道（人間界の中で、苦しみだけでなく楽しみもある）の担当。



キ、不空罽索観音（ふくうけんじゃく）

一切の衆生をもらさずに救済してくれると言われている。

III. 坂東三十三観音霊場（札所）の歴史と構成

1、歴史

日本における観音信仰は飛鳥・奈良時代に始まり、以後観音巡礼の盛衰は、その時代の統治者により、大きく影響をうけてきた。また、巡礼の目的、方法等もその時代の庶民の生活に左右されてきた。以下に各時代ごとの状況を説明する。鎌倉時代に坂東33札所が開設され、室町時代には秩父34札所が開設され、西国と併せ百観音霊場となった。しかし、これまでの観音霊場巡りでは寺の僧や上層階級者が対象で、庶民レベルではなかった。江戸時代になり、政権が安定し、旅の安全が確保され、各地に霊場が拡大し、庶民層まで広がった。江戸時代の霊場数は32か所以上あるとされており、これ等の坂東（関八州）の主なものを次に

紹介する。

- ・坂東 ・秩父 ・江戸 ・武蔵野 ・狭山 ・鎌倉 ・八王子 ・上総 ・小玉
- ・比企西国 ・入比坂東 ・高麗坂東 ・ぼけ封じ関東等の各三十三観音霊場。

私達が訪れた寺の住職さんの話によると、高度経済成長期以降現在は、心の安らぎを求める旅行者や観光を兼ねて札所を訪ねる人々が多くなり、最近では若い人達を含めてのブームが起きているとのことである。

*観音霊場の歴史

時代	時代背景	観音霊場の動向
飛鳥奈良時代	・仏教伝来 ・国分寺創設	・修行僧による当時の66国巡り
平安時代	・源平合戦	・西国観音霊場始まる ・四国遍路始まる
鎌倉時代	・鎌倉幕府 (将軍頼朝の観音信仰)	・坂東観音33霊場始まる
室町時代	・地方豪族の割拠	・地方霊場始まる 秩父・最上・信濃・津軽・奥州等
江戸時代	・旅の安全、政権安定 ・生活に余裕・観光	・巡礼の多様化(本尊・祖師・札所) ・庶民層まで普及 ・千社札貼り付け
明治維新	・廃仏毀釈	・巡礼の減少
明治中期～	・寺院の復活 ・日清・日露戦争	・巡礼の復活 ・団体参拝 ・数参り
大正・昭和初期	・鉄道の発達	・沿線ごとに霊場の再編成
昭和・終戦後	・寺院の減少 ・科学万能思考高まる	・札所の減少 ・巡礼者激減
平成・現在	・経済成長 ・高齢化社会	・札所めぐりの大ブーム ・心の安寧を求め札所の復活 ・ぼけ封じ霊場も盛んとなる

2、坂東札所の構成

坂東札所は、関八州の鎌倉杉本寺を第一番、安房館山的那古寺を三十三番とする全行程 1,300 km に広がる霊場である。

*坂東札所県別寺数

神奈川 9	埼玉 4	東京 1	群馬 2
栃木 4	茨城 6	千葉 7	

*関八州名

相模	武蔵	上野	下野
常陸	上総	下総	安房



IV. 巡礼の装束とお参りの作法について

1. 装束と持ち物

巡礼になるにはまず装束からです。身なりを整える事でお参りに対する気持ちや心構えが、随分と変わる。

ア、白衣 白装束（死装束）を身に付けて、自分を無にして巡礼する。聖なる世界を歩む者の象徴と考えられる。背中には弥勒菩薩の梵字と「南無観世音菩薩」の文字が入っており、お参りごとに御朱印を押して頂く。
イ、お袈裟（輪袈裟）仏様にお参りするときの正装具です。食事や手洗いの時は外す。



ウ、金剛杖 白木の金剛杖は道中の歩みを助けてくれ、お大師様の化身として大切に扱う。杖の四面には般若心経が記してあり、上部には「地水火風空」と書いてある。道中の精神的な支柱となり、橋の下で眠っているお大師さんを起こさぬよう、橋の上で杖を突かない慣習がある。

エ、菅笠 日除け雨除けになり、安心感もでる。梵字と「同行二人」の字が対称に記されており、梵字が前になるようにかぶる。お堂の中でもお坊さんの前でも笠は取らなくても良い。笠には他に四句が記されており「欲望に任せて迷って苦しむよりも、心を清めて明るい境地に立て。すると自由な広い世界が待っている。」の意味である。

オ、他に頭陀袋、手っ甲、脚絆、地下足袋、鈴等がある。

白装束に箔をつけるセットだが、それぞれに使ってみると威力を発揮する。

カ、納経帳 お寺ごとに御朱印を貰うための帳面で、巡礼をした証で遍路の持ち物で一番大切なものである。（記念スタンプ帳ではない）

キ、お数珠、納札、経本（般若心経等）、納経軸、線香、ろうそく等々。

2. お参りの心得について

霊場巡りは、お大師さんの言葉で「諸戒は十善を本とする」とし、何事も修行と心鎮めて巡礼の心得とするように説かれている。

- ①不殺生：ころしてはいけない ⑥不悪口：（ふあつく）悪口を言ってはならない
- ②不偷盗：（ふちゅうとう）盗みはいけない ⑦不両舌：二枚舌を使ってはいけない
- ③不邪淫：不純な性欲はいけない ⑧不慳貪：（ふけんどん）貪ってはいけない
- ④不妄語：うそをついてはいけない ⑨不瞋恚：（ふしんに）怒ってはいけない
- ⑤不綺語：虚飾の言葉はいけない ⑩不邪見：よこしまな考えはいけない

3. 霊場での作法について

- ①境内に入る前に山門、仁王門に一礼 ⑤本堂へ行き、納札、写経を納める
- ②水屋で手と口を清める ⑥合掌一礼し、般若心経等を唱える
- ③参拝前に鐘を突く ⑦納経所で御朱印を貰う
- ④御灯明、お線香をつける ⑧門を出る時、境内に向かい一礼

V. 鎌倉二寺と埼玉四寺の紹介

1、大蔵山 杉本寺 (鎌倉)

坂東第一番札所

本尊：十一面観音菩薩

開基：光明皇后 開山：行基

宗派：天台宗

創建：天平六年（734年）



奉納幟が風にはためく第一番霊場

(1) 縁起

正式には大蔵山杉本寺観音院、縁起書によれば天平六年の春、光明皇后（聖武天皇の後）の御願いにより、大臣藤原房前（不比等の二男）と行基が堂宇を建立し、行基自ら刻むところの十一面観音を安置したのが杉本寺の創建という。次に、仁寿元年（851年）に円仁（慈覚大師）が海に浮かぶ霊木から十一面観音像を彫り安置した。つづいて源信（恵心僧都）が花山法皇の命により十一面観音を彫り安置する。併せて坂東第一番の札所と定め、花山法皇自らご巡礼された。寺伝では文治五年十一月二十三日（1189年）の夜、堂宇が炎上したとき本尊三体みずから杉の木の下に火を避けて無事だったことから「杉本」の観音様といわれる。建久二年（1191年）九月十八日に源頼朝公が御堂を再興され、前の三像を内陣におさめ秘仏とし、前立てに運慶作の七尺の十一面観音像を寄進したという。信心なくして御堂の前を馬にて乗り打ちする者は必ず落馬するというので、当時は下馬観音ともいわれた。鎌倉最古の寺であり、坂東、鎌倉三十三観音霊場第一番、鎌倉二十四地蔵霊場四番、六番でもある。

(2) 文化財 本堂（観音堂）秘仏本尊

十一面観音（右）： 恵心僧都作（明治32年国宝）

十一面観音（中）： 慈覚大師作（現在重要文化財）

十一面観音（左）： 行基作（覆面、下馬観音）

本尊前立十一面観音： 運慶作

山門 仁王尊： 運慶作



(3) 見どころ

発願入りの朱印は杉本寺のみ



杉本寺に皈依した源頼朝



苔むした石段

(4) ご詠歌

頼みある しるべなりけり 杉本の 誓ひは末の 世にもかはらび

2、海光山 慈照院 長谷寺 (鎌倉)

坂東第四番札所

本尊：十一面観音菩薩

開基：藤原房前 開山：徳道上人

宗派：浄土宗

創建：天平八年 (736 年)



長谷寺正門

(1) 縁起

本尊は十一面観音立像 (9.18m) で、木彫りの仏像では日本最大級である。もとは材木座の光明寺の末寺であったが、現在は単立の浄土宗寺院である。ただし、江戸時代の正保二年 (1645 年) 以前は真言宗であったという。縁起書によれば、長谷寺の起源は奈良の豊山長谷寺にあるという。豊山長谷寺の本尊、十一面観音菩薩像は、養老四年 (720 年) 時の高僧徳道上人が彫ったとされている。このとき上人は楠の大木から二体の観音像を彫り上げ、一体は豊山長谷寺に納め、残る一体は祈り捧げたのち、海に流したという。16 年後、流された像は相模国へと漂着し、これを奉納するために開かれたのが長谷寺だという。同寺の十一面観音菩薩は岩座に立つ独特の象容をしている。これは豊山長谷寺をはじめとした全国の長谷寺の観音像に見られる特徴で「長谷寺式十一面観音像」と呼ばれている。なお、同寺に現存する本尊像は創建当初のものとは断定しがたく、鎌倉期の造立と推測されている。



十一面観音菩薩

(2) 文化財

観音三十三応現身立像：室町時代の作 (鎌倉市指定)

懸仏 (全 6 面) : 鎌倉末期から室町時代の作 (重要文化財)

梵鐘 : 文永元年 (1264 年) の銘あり (重要文化財)

長谷寺縁起絵巻 : 江戸時代の作 (神奈川県指定文化財)

(3) 見どころ

ア、長谷寺は鎌倉有数の花の寺として知られ、西方浄土に見立てた境内には四季の花が植えられている。観音堂の山腹の斜面には、2,500 本の色とりどりの紫陽花が美しく咲き乱れ、秋の紅葉のライトアップと共に大人気である。



境内の紫陽花



由比ヶ浜

イ、鎌倉八景のうち「長谷の晩鐘」の謳われた景勝地でもあり、

その眺望は、由比ヶ浜はもとより、遠く三浦半島や相模湾も一望できる。

ウ、観音ミュージアム

長谷寺の貴重な至宝の展示室の他に、それぞれの部屋で「観音様の御利益」を体感できる。

エ、鎌倉名物、しらす丼もなかなかの美味である。

オ、鎌倉の文豪でノーベル賞作家の川端康成の表札が架けられた長谷の旧邸もある。



美味なしらす丼

(4) 雑感

3月29日、私達は9.18m長谷観音様の真下に近づいてお参りしました。下から見上げると、金色に輝く体と、顔のバランスが一番美しいとされる位置での拝顔でした。

(5) ご詠歌

長谷寺へ まいりて沖を ながむれば



長谷寺の御朱印

由比のみぎはに 立つは白波

3、都幾山 慈光寺

坂東第九番札所

本尊：千手観音菩薩

開基：慈光翁

宗派：天台宗

創建：天武二年(673年)



観音堂



法華経一品経(国宝)

(1) 縁起

慈光翁が僧慈訓に命じて千手観音像を彫らせ奉ったのが始まりとされる。宝亀元年(770年)道忠が開山、平安初期清和天皇が勅願寺と定め天台宗別院「一乘法華院」とした。



梵鐘

(2) 文化財

写経全33巻：後鳥羽天皇をはじめ藤原兼実ほか一族が法華経など書写して奉納、
巖島の平家納経寺とともに日本三大法華経とされる国宝の一品経

経箱：上記の経巻を納めた物 (国指定重要文化財)

梵鐘：寛永三年(1245年)鎌倉時代、東国の名工物部重光作
(鎌倉の大仏などを手掛ける) (国指定重要文化財)

大般若経 600巻：関東最古の写経 (国指定重要文化財)

金銅密教法具 14 口：密教独自の宗教行事に使用する金工品銘の入った密教法具は珍しく鎌倉時代の基準作とされている。（国指定重要文化財）

多良葉樹：（樹齢 1100 年）慈覚大師円仁が植えたといわれる。この木の葉は楕円形で傷つけるとその部分が黒くなる性質を利用し、昔はこれを葉書の代用にした所からハガキの木とも呼ばれている。（県天然記念物）

(3) 年中行事：（主なもの）

元旦 新年祈願：正月 3 日間

御本尊お開帳：4 月 17 日

火渡りの行：5 月 3 日

参加者は裸足で火の上渡り厄や邪気、心の迷い不安などを焼き払って行く。



火渡りの行



多良葉樹

(4) 見どころ

ア、千手観菩薩：寺の御本尊の観音像はその手の中の一本だけが後ろを向いて（甘露手と云われている）母親が子供を背負っている姿を現しているのが特徴である。面白いことに頭部と体部の制作期が異なり、頭部は室町時代の天文十八年（1549 年）作だが体部は江戸時代の享和二年（1802 年）の制作である。普段は秘仏で御開帳は毎年 4 月第 2 日曜日 17 日の 2 回である。私達は 17 日に拝観に参りました。立像 270cm、黒の漆塗りに覆われた大きな立派な観音様を間近に参拝出来、ご住職の法話も頂き、とても貴重な体験が出来た。



千手観音菩薩



開山塔の覆屋とシャガ

イ、シャガ：曲がりくねった参道を登って行くとシャガ群生地と書かれた立て札を目にするアヤメ科の白花で、五月初旬頃楽しむことができる。

ウ、里桜：50 種を超える桜が 300 本以上植えられ春には里桜コレクションが展開される。

エ、青石塔婆：参道中間辺りに並ぶ、鎌倉～室町時代の建立で、大きいものは 2m を優に超すものもある。

(5) 伝説（夜荒しの名馬）

観音堂外縁に左甚五郎の作と云われる尾を切られた白馬がつるされており、夜になると畑を荒らすので、ここに吊るし上げられたといわれている。



夜荒しの名馬

(6) 近隣の名所旧跡

ア、**霊山院**：建久八年（1197年）もとは慈光寺の子院、関東最古の禅寺で水琴窟の音色にも癒される静かな禅寺である。



絶景かな霊山院

イ、萩日吉神社

流鏝馬：天福元年（1233年）より始まったといわれ、三年に一度行われる。

神楽：秩父神社系と上州系の要素をとり入れた特徴的な神楽である。毎年4月29日に行われている。

ウ、**食事処（古民家やすらぎの家）**：慈光寺の参道入口に位置する農村体験交流施設。100年以上前の古民家を移築し、地元の味覚のうどんを味わえる他うどん打体験も出来る（要予約）。2階はギャラリーになっている。



名物の天ぷらうどん



道標

右九番慈光寺へ四里半



御朱印



悟りを開きかけた内田翁

(7) ご詠歌

聞くからに 大慈大悲の 慈光寺 誓ひも共に 深きいわどの

4、巖殿山 正法寺（岩殿観音）

坂東第十番札所

本尊：千手観音菩薩（ご開帳十二年に一度）

開基：沙門逸海 創建：養老二年（718年）

宗派：真言宗智山派



観音堂

(1) 縁起

沙門逸海上人が岩殿山の崖を削り千手観音像を岩窟に安置したことが始まりとされる。鎌倉時代初期に源頼朝の命で比企能員が復興し、北条政子の守り本尊だったと伝わっている。

(2) 文化財

銅鐘 : 元亨二年 (1322 年) (県指定有形文化財)

天正十八年 (1590 年) 豊臣秀吉による関東征伐の際にこの鐘を引きずりまわして打ち鳴らし軍勢の気を鼓舞したと云われ、その時についた傷が残っている。普段は突くことは出来ないが、大晦日の除夜の鐘の際には厳かな鐘の音を響かせている。

鐘楼 : 元禄十五年 (1702 年) (市指定有形文化財)

大銀杏 : 樹齢 700 年。秋の美しい紅葉や、大きく張出した根っ子も圧巻である。(東松山市指定天然記念物)



鐘楼と梵鐘

(3) 年間行事

- 1 月 1 日~7 日 元日初護摩修行
- 2 月 3 日 節分会
- 4 月 15 日 大般若経転読
- 7 月 1 日 尻あぶり
- 8 月 9 日 灯籠祭り
- 8 月 27 日 万霊水子施餓鬼
- 12 月 22 日 冬至祭り
- 12 月 31 日 除夜の鐘



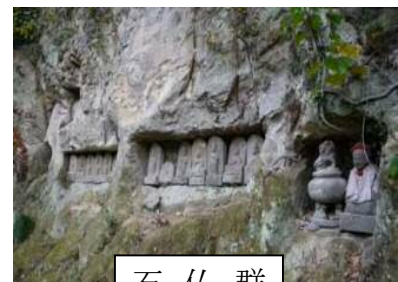
大銀杏



正法寺ご朱印

(4) 見どころ

ア、石仏 : 観音堂の右手岩崖に並ぶ西国三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所、秩父三十四ヶ所の百観音の合計 188 体のうつし石仏が有り、ここ一ヶ所で各霊場の巡礼と等しい御利益を授ることが出来ると云われている。



石仏群

イ、境内 : 急斜面を切り崩したような場所にあり、山寺の雰囲気がある。四季折々の自然にも恵まれ、つつじ、紫陽花も楽しめる。植込みの中に戦国時代の松山城主上田朝直の命が書かれた木製の立札があり岩殿山一帯の木や草を刈り取ることを禁じている。



紫陽花



参道

ウ、参道 : 細長い参道が仁王門に向かって一直線に伸びている。約 50 戸立ち並んだ民家には、昔の屋号の表札が掛った家もあり、昭和初期までの門前町の賑やかさが偲ばれる。仁王門の先までまっすぐ続く約 100 段の石段を登り終えた境内からの眺めは思わずため息が出るような風景である。

(5) 伝説 (悪龍伝説)

延暦年間(782~805年)比企の山には悪龍が住み、田畑を荒し村人を困らせていた。村人は奥州征伐に向う途中の坂上田村麻呂に悪龍退治を依頼した。そこで田村麻呂は岩殿山の千手観音に祈願したところ炎暑の中、一夜のうちに大雪が降り一か所だけ雪の消えている所があり、そこが悪龍の住处と定め、観音様お授けの矢で退治したと云う。その首を埋めた所に沼ができ、カエルも恐れて鳴かない所から鳴かずの池(弁天沼)と呼ばれている。赤い橋の先に弁天堂もあり、幻想的なスポットである。



弁天沼と弁天堂

(6) ご詠歌

後の世の 道を比企見の 親世音 この世を共に 助け給へや

(7) 近隣の名所旧跡



ニュートリノ
梶田隆章氏ノーベル
物理学賞授与記念碑



ガンジー像
高田博厚の彫刻群



埼玉県平和資料館

5、岩殿山 光明院 安楽寺

坂東 第十一番札所

本尊：聖観世音菩薩

宗派：真言宗智山派

創建：大同元年 (806年)

開基：行基上人



(1) 縁起

聖武天皇の御世 741年頃、行基上人が御作の菩薩観音像を岩窟の洞に安置して、石で扉をしたのが初めだそうです、後延暦十四年、坂上田村麻呂が桓武天皇の命により奥州征伐の途中(800年頃)この地に立ち寄り、不思議な観音様の夢を見たことから、村人が岩窟を見つけたが、扉が開かず、村中の人達と一緒に祈願



本堂裏の岩屋

したところ、扉が開き、中から菩薩が光明を放ち村中を照らし、まるで天の岩戸の様だったそうである。今でも岩屋は保存され昔日を偲ぶことができる。坂上田村麻呂は、戦勝をして大同元年に百僧をもって供養し、横見郡の総鎮守とし、岩戸（殿）山安楽寺の号を得たという。この岩屋には石造りの大日如来像が安置されている。岩屋の扉には梵字のような文字らしきものが刻んであり、開けると村中水浸しになるとの言い伝えがある。

治承寿永の乱（源平合戦）で源義経と共に平家を滅ぼした源範頼は、源義朝の子で、義朝が平治の乱で破れ、比企の尼の指示により武蔵の国の安楽寺へ逃れ稚児僧となり蟄居、元服した後に安楽寺の近くに（今の息障院の所）館を構えた。故に、この地が御所と言う地名になったと言われている。源頼朝が旗揚げすると、義経と平家追討軍に加わり、平家を九州まで追い詰め勝利するが、義経と同様「富士の巻き狩りの事件」により、頼朝から疎まれて武蔵の国横見郡吉見の安楽寺に、隠れ住んだと言われている。範頼の妻の祖母で頼朝の乳母であった比企の尼の嘆願によって、子の範円は助けられて、都幾山慈光寺に入り子孫の、五代にわたり吉見氏として今の吉見のこの地に住んでいたとされている。川島町の金剛寺に比企氏の系図がある。

札所十一番安楽寺
（蒲冠者 源範頼の碑）



(2) 文化財

三重塔：（埼玉県 重要文化財）

範頼は、15間、4面の本堂と、高さ18間、4間4面の三重塔を建立したが、戦国時代小田原の北条氏康と扇谷上杉の戦いで、松山城が攻められた時、安楽寺を含め付近の寺院は尽く灰塵に帰してしまっただが、今から350年前の寛永年間に、杲鏡（ゴウキョウ）法院と、その弟子・秀慶によって、三重塔、本堂、伽藍が中興された。全体の高さは25mで、様式は穏健な純和風的な建築様式である。昭和35年復元大修理をした。



三重塔

本堂：（埼玉県 重要文化財）

本堂も杲鏡によって中興され、正面には愚禪の揮毫による「補墮落の額」、本堂の中には周水の書による「安楽寺」の額が掲げられている。正面奥には、聖観世音菩薩、坂上田村麻呂、不動明王像、大日如来像、弘法大師像、杲鏡の像等が祀られている。



本堂

仁王門：（市指定文化財）

仁王門は、三棟作りと言う非常に珍しい造りで、仁王様の屋根と通路の屋根がそれぞれあり、その二つの屋根の上に、大きな屋根が覆っている。



仁王門

本堂に掲げてある額 等：

左甚五郎の作として有名な野荒しの虎の彫刻。この虎は夜毎、本堂を抜け出し家畜や田畑を荒らしまわり、村人に槍で脚を突かれ、その血の後を辿ると、お堂の欄間まで続き、後ろ脚に沢山の血がついていたそうである。餅をついて村人へ振る舞った老人慰労会の絵の額や、実際に使った杵が、柱に括りつけてある。ご詠歌の額、雅人達の舞の額、日常生活の額、算額、源頼光のぬゑ（顔は猿、身体は虎、尾は蛇）の額、など修復し後世に伝えたい彫刻や絵の額が数多くあり、一見に値する。



源頼光の「ぬゑ」



左甚五郎作 野荒しのトラ

(3) 見どころ

朝観音：

毎年6月18日は、「朝観音」と言われる安楽寺の縁日である。大勢の老若男女が、早朝2時ごろから参拝に訪れ、聖観世音菩薩と五色の糸で結ばれた御開帳紐に、手を触れ家内安全、厄除け、安産等を祈願する。朝、早ければ早いほどご利益と厄払いが叶えられると言われている。これは昔、疫病が流行った時、団子を作って観音様へ御供えし、祈願したところ、病が癒えたという故事によるものである。

今日でも参拝祈願をし「厄除け団子」を買い求める人が後を絶たない。住職さんのお話によると寺には一軒も檀家さんが無いという。安楽寺から、



聖観世音菩薩と繋がる5色の糸



名物の厄除け団子

北側へ歩いて5分位のところに「八丁湖」という用水湖があり、一周出来(約1.5km)、途中に黒山横穴古墳群があり「吉見百穴」と同種のもと言われていいる。南へ歩いて15分程のところに、源範頼の館跡に建てられた息障院があり、山門は吉見町の文化財に指定されている。

(4) ご詠歌

吉見よと 天の岩戸を 押し開き 大慈大悲の 誓いたのもし

6、華林山 最上院 慈恩寺

坂東第十二番札所

本尊：千手観世音菩薩

開基：天長元年（824年）

開山：慈覚大師（円仁）

宗派：天台宗



十三間四面の本堂

(1) 縁起

この寺は天長年間（824～834年）円仁の開山によって創建されたと伝えられる。天正十八年（1590年）関東に入部した徳川家康から翌天正十九年（1591年）に寺領を寄進され、江戸時代に入ると江戸幕府のほか岩槻城主からも帰依を得た。

(2) 伝説

天長年間に、慈覚大師が関東巡錫の折り、日光山の頂上から「仏法弘通の霊地あらば示し給え」と桃李の実を投げたところ、今寺のある地に落ちて花を咲かせ、実ったので華林山と号し、千手観音を刻み、一字を建立して安置したのが、創建の始まりと言われている。このように寺社仏閣は、人間社会の安寧の求めに応じ、また統治の手段として建立され、人々の心に深く刻まれていったものと思われる。

(3) 文化財

南蛮鉄灯籠：（市指定有形文化財）

天正十七年（1589年）に北条（太田）氏房の家臣伊達与兵衛房実により寄進された。



南蛮鉄灯籠



金銅製阿弥陀如来坐像：

天和二年（1682年）の江戸の大火、通称「八百屋お七の火事」で亡くなった人々の供養のために造られたと云われている。

(4) 見どころ

西遊記（孫悟空物語）で名高い**玄奘三蔵法師の霊骨石塔**です。十三重で高さは約15mあり、慈恩寺が管理している。場所は慈恩寺本堂山門から直角に200mほどで左折、徒歩5分ほどである。昭和十七年（1942年）に南京駐留の日本軍が南京で発見した玄奘三蔵の遺骨の一部が、寺号の因縁から戦後に慈恩寺に贈られた。寺では、十三重の花崗岩の石組みによる霊骨塔「玄奘塔」が落慶し、霊骨をおさめた。



玄奘塔



玄奘三蔵法師

人形作り日本一の町

徳川幕府が日光東照宮を作ったころに始まったと伝えられている。



江戸時代末期の文化・文政期（1804～1818年）に、岩槻久保宿に住んでいた人形師の橋本重兵衛が、裱雛を考案し、庶民にもてはやされ、やがて岩槻藩の専売品となった。

『日光東照宮の造営、修築にあたった匠達がこの地に足をとどめ、人形づくりを手がけたのが岩槻人形の始まりと伝えられている』

岩槻人形(市松人形愛ちゃん)

岩槻城址公園

桜の名所：北条氏の証拠の障子堀。太田道灌一族が城主であった。

時の鐘：埼玉で最古の時の鐘、300年間時刻を告げ今でも現役でよい音色である。

その他に浄安寺・浄国寺・愛宕神社・郷土資料館・一里塚・酒造資料館・弥勒蜜寺・八雲神社・芳林寺・諏訪神社等の見どころもある。

食事処



岩槻名物のおそば

(5) ご詠歌

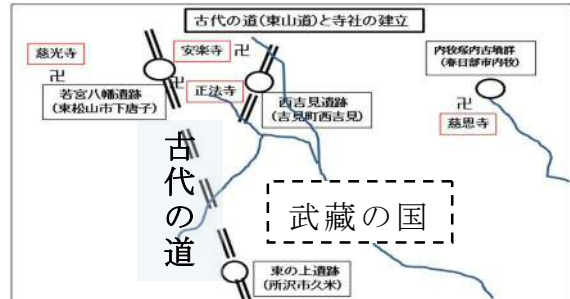
慈恩寺へ 詣る我が身も たのもしや

うかぶ夏鳥を みるにつけても

VI. 文化遺産の継承と発展について

1、寺社の創建

今から約 1300 年前、大和朝廷は、全国の支配を強固にするため、特定の任務を持った役人や地方での反乱を鎮圧するに必要な、軍隊が通る道（古代の道：最大幅約 12m）を整備した。その道は、奈良の都を起点とし、陸奥・出羽国に至り、30 里（約 16 km）ごとに「駅家（うまや）」を置き、駅馬 10 疋を常備したものである。その古代の道沿いに、多数の古墳が発掘されたことから、当時の大規模な集落の営みと、遠く奈良の地から派遣された役人や僧侶等が、世の中の安寧と治政を願い、寺社仏閣を建立したことを窺い知ることができる。すなわち、この時代に建立された「慈光寺」「正法寺」、「安楽寺」そして「慈恩寺」は、人間社会の安寧の求めに応じた統治の手段として、また人々の心の象徴として建立され、人々が生きてく上での拠り所となったものと思われる。



2、古代からの寺社存続の経緯

約 1300 年前の奈良時代に建立された寺社仏閣が、今日まで存続した理由として、次の 4 つのことが考えられる。

一つ目は、寺社仏閣の管理者である住職等が中心となり、経典を残し、像を造立して、その維持・管理に努めるとともに、次の世代に引き継ぐための後継者の育成や寺社存続体制整備に心血を注いできたことである。特に、慈光寺においては、平安時代に後鳥羽天皇など 32 名が書写・寄進した国宝の「法華経一品経」や重要文化財である「梵鐘」を温存し、寺宝としての「木造毘沙門天立像」を造立してきたなど、まさに自助努力の成果が存続の歴史を感じさせてくれる。

二つ目は、時の実力者・有力者からの援助・支援があったことである。特に、慈光寺は、鎌倉時代に源頼朝から「寄進状 1200 町歩」等の奉納があった。また、正法寺・安楽寺は、源範頼により寺領の拡大や三重塔・講堂の寄進があった。その一方で、存続を危める宝物強奪事件や合戦で焼失したことがあったが、その都度、再建・復元されている。まさに時の有力者達が、寺社仏閣の維持・存続に大きく関わってきているといえる。今では、その流れとして、国の文化遺産保護制度がある。

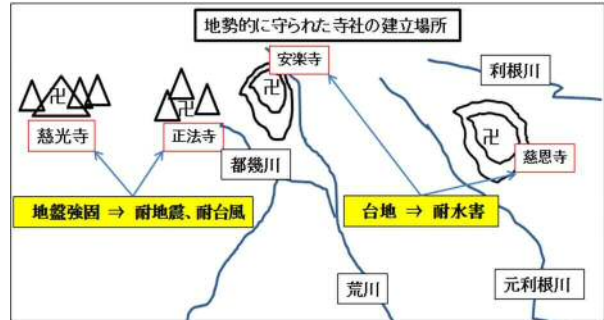
三つ目は、今なお寺社仏閣を中心とした地域社会への溶け込みや支えである。すなわち庶民に



安楽寺の厄除け朝観音

親しまれ、延々と受け継がれている文化（お祭り・風習、檀家、保存会等）が寺社を中心として地域に存在する。特に、正法寺を取り巻く地域は、今なお、各家庭の庭先で、背中に藁焼きの煙を浴び（ケツ炙り）、無病息災を祈願する風習がある。また、安楽寺の参道には「厄除け団子」の店がある。また、お寺に檀家・保存会が結成され、寺社仏閣の管理運営やお祭りの企画実行に携わるなど、地域の支えが大きく影響している。

四つ目は、地勢的理由である。すなわち、この四つの寺社仏閣は人々の心を癒す神秘的な場所や便利な街道沿いにある。またその場所は、過去の度重なる地震・風水害を凌ぎ、乗り越え今日までに至っている。この事実から、地勢的に強靱な場所に存在していると思う。これらの4つが、上手くかみ合い、約1300年の時を乗り越えてきた理由だと思う。勿論、その中でも住職等の自助努力が最大の理由であると思える。



3、地域に支えられた寺社の発展

鎌倉時代に幕府の庇護によって栄えた慈光寺は、七十五坊にまで盛えた。しかし、今では、七十二坊がその形を消し、跡地を山中に確認できる程度である。また、同時代に六十六坊まで盛えた正法寺においても、今は、ほとんどがその形を留めていない。このように寺社仏閣の栄枯盛衰は厳しいものがある。今後、長年にわたり現状の形を維持存続・発展していくためには、地震・風水害等の自然災害に打ち勝つことだけでなく、寺社自からの存続への努力、お祭り・風習・保存会結成等の地域の密接な支え、更には権力者等に代わる国・自治体の保護（援助）は必要となろう。これからの存続の一つの形として、鎌倉市内の杉本寺のように、ひっそりした厳然さを残していくのもよし。また、【提言】同じ地にある長谷寺のように眺望を良くし、博物館を建て、お参りする人の増加を図る等、地域一体となった活性化の道（発展）があるのではないか。

【提言】正法寺活性化の一例



【文化圏の整備】

- ① 正法寺の造営（博物館等）
- ② 文化館、防災館（自治会用）の新設
- ③ 天空の千年吊り橋（500m）新設
- ④ 足利基氏館の新設、松山城の復元移設
- ⑤ 人気会館（パスタ・焼きにぎり等）新設
- ⑥ 各文化施設と大学を繋ぐ遊歩道の新設

Ⅶ.まとめ

仏教分野の知識がほとんどない9人で、埼玉県内の4か所の坂東札所巡りの課題研究に取り組みました。ただ、「ご朱印」を頂くだけでなく、観音様と常に一緒にとの気持ちで、まさに『同行十人』で、まず、一番札所の鎌倉「杉本寺」から、打ち始めました。

法燈は、廃仏・土地収用・天災が繰返し寺院を襲うなか、鎌倉初期以来800年間も変わらずに護られてきた。それでもなお、坂東札所三十三ヶ寺が変更されずに存在することは、日本にとって大きな宝である。救いの手を差し伸べてくださる観音様と出会い、自分の心に触れる旅になりました。

今、改めて思うのは、祖先達が長い歴史の中で良き伝統文化や文化遺産

を培い、大切にしてきた日本人の原点を認識することで、現代を生きる我々は沢山のものに見守られて人生を歩んでいる。これから先も、本堂の前で人々が合掌し、線香のかほりが漂う境内で、自身の内なる観音様と向き合える・・・そんな世の中が続いていくのではないのでしょうか。



坂東 33ヶ寺+長野 2ヶ寺の御朱印

今回の課題研究は、鎌倉札所 2 寺と埼玉県内の札所 4 寺から始めましたが、今後は三十三番千葉県「那古寺」を打ち納めの寺とし、長野県「善光寺」での『結願御礼』の寺巡りにて、今回の私達の祈りの旅の終幕と考えている。皆様も良きご巡礼をなさっては如何でしょうか！

この課題研究を進めるに当たり、各寺院の御住職、埼玉県立嵐山史跡の博物館学芸主幹の加藤光男様、大勢のボランティアガイドの方々より、仏閣・仏学・歴史文化への熱い思いや、その体験を熱心に講話、ご指導して頂き、その姿は私達の心に響きました。

大変お世話になり、深く御礼申し上げます。

【参考文献】

- ・さきたま文庫「慈光寺編・正法寺編・安楽寺編・慈恩寺編」
- ・埼玉県立嵐山史跡の博物館学芸主幹、加藤光男氏「講義録」
- ・鎌倉三十三観音霊場巡りガイド「鎌倉逍遙」
- ・山と溪谷社「坂東札所三十三カ所を歩く」
- ・集英社「わたしも四国のお遍路さん」



慈光寺ご住職の講義

